

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 12 月 27 日作成)

|                              |   |  |
|------------------------------|---|--|
| 小委員会名                        | 鉄筋コンクリート構造計算規準改定小委員会  | 主 査 名：市之瀬敏勝<br>就任年月：2006 年 4 月   |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 構造委員会<br>(鉄筋コンクリート構造運営委員会)  | 委員長名：和田 章<br>主 査 名：林 静雄  |
| 設 置 期 間                      | 2006 年 4 月 ~ 2009 年 3 月   |  |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1999 年に出版された鉄筋コンクリート構造計算規準を改定する。</li> <li>・2006 年度：概略の改定方針を固めて，社会に周知させる。</li> <li>・2007 年度：本文と解説の素案を作成し，ウェブを通じて公開する。</li> <li>・2008 年度：本文と解説の最終案を作成する。</li> </ul>                                       |  |
| 委員構成<br>(委員名(所属))            | 委員公募の有無：なし  |  |
|                              | 市之瀬敏勝(名古屋工業大学), 北山和宏(首都大学東京), 飯塚正義(フドー建設), 植木暁司(国土交通省, 2006 年 11 月から), 勝俣英雄(大林組), 加藤大介(新潟大学), 壁谷澤寿海(東京大学), 黒瀬行信(清水建設), 後藤康明(北海道大学), 塩原 等(東京大学), 末兼徹也(国土交通省, 2006 年 10 月まで), 鈴木幹生(NTT ファシリティーズ), 角 彰(竹中工務店), 田中仁史(京都大学), 福島順一(大成建設), 福山 洋(建築研究所) |  |
| 設置 WG<br>(WG 名:目的)           | 柱・梁 WG: 6 条, 15 条, 16 条を検討する<br>定着 WG: 17 条を検討する<br>耐震壁 WG: 19 条を検討する<br>二次設計 WG: 二次設計に関する留意事項をまとめる   |  |
| 2006 年度予算                    | 470,000 円   | ホームページ公開の有無：あり<br>委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s22/">http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s22/</a> |

| 項 目                                | 自己評価  |
|------------------------------------|---|
| 委員会開催数                             | 9 回(年度内計画を含む)   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)          |   |
| 講習会                                |   |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)      |   |
| 大会研究集会                             |   |
| 対外的意見表明・パ<br>ブリックコメント等             | 1 . <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s22/">http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s22/</a> で公開   |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得ら<br>れた成果との関係) | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 公開小委員会で改定案を発表した。<br/>配付資料「鉄筋コンクリート構造計算規準の改定案」 参加者数 90 名</li> <li>2 . 公開小委員会で得られた意見をもとに，案をさらに練り直している。</li> <li>3 . よって，本年度の目標はほぼ達成できそうである。</li> </ol> |
| 委員会活動の問題点<br>・課題                   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 小委員会の開催数が多すぎたため，旅費が不足した。</li> <li>2 . ホームページで公開した資料に対する意見がほとんど得られなかった。</li> </ol>  |